HITACHI

協会だより

4月度常務理事会

日時　4月7日(日)13時～16時
場所　97男子世界選手権熊本事務局会議室
出席者　中沢専務理事、常務理事8名、事務局2名

1、97男子世界選手権大会関連事項

　3月19日の実行委員会、及び4月2日の組織委員会の経過報告がなされた。

　IHFとの契約問題については、常務理事会としてもその内容をよく認知しておき、最新の契約書から従来との相違点を調査、確認をし、その内容に沿って具体的実行の方策を検討することとした。

　収支予算(案)について、組織委員会資料が説明された。日本協会負担金を確保するための方策を検討、実施するために全力を上げる。

　自転車振興会等外部団体からの補助金交付について、内定通知を受けたことが報告された。補助金の使途は、ハンドボール競技の普及に資するための広報事業、同世界選手権大会の全国展開広報の費用に充当し、補助金と同額を日本ハンドボール協会が準備し支出することで了承された。補助金の交付を受諾するために、補助金交付申告書を日本自転車振興会公益事業へ提出することを常務理事会で承認・決議した。

　特別個人賛助会5000人キャンペーンについて、発起人代表、一口の金額、資金の有効活用について検討したが、継続審議することとなった。

　4月2日開催の組織委員会について報告がなされた。

2、ジャパンカップ関連事項について

　審判会議、代表者会議の進行について審議。ベストセブンの選考委員の決定。常務理事会後、ジャパンカップ実行委員会運営会議が開催され検討。

3、平成9年度全日本総合選手権の開催について

　東京都協会主管辞退に伴う実行委員会結成について、女子の部の開催について、次回常務理事会で審議。

4、第3回(2001年)東アジア大会について

　大阪協会との打ち合わせについて経過説明があり、JOCと大阪市に対して会長名で請願書を出すことにした。

5、オーナー特別強化資金について

　財務特別強化関連の決算報告をする旨発言があった。日本リーグ特別委員会資金の有効活用について、他の事業の運用について全体計画を検討する必要がある旨、また資金運用の事業について承認する機関と方法について意見があった。オーナー会議は年1回、また各部門ごとに開催する方向で検討することとした。

6、スポーツ医学・ハンドボール国際学会について

　開催についての経過説明があり、経費の点についてさらに検討が必要なため、次回審議することとなった。

【報告事項】

1、第4回日・中・韓ジュニア交流大会への派遣チームについて、インターハイ優勝男女チームを派遣することで高体連の承諾を受けた旨報告があった。

2、小学校学習指導要領へのハンドボール導入のための委員会を組織し、活動中であることが報告された。

3、日本協会における世界大会に向けての事業と担当者について検討された役割分担表が配布された。

4、プレーオフの新聞記事等が配布された。

5、中国ナショナルチーム親善試合日程(案)等が説明された。

4月度臨時常務理事会

日時　4月20日(土)10時30分～17時
場所　日体協505号会議室
出席者　中沢専務理事、常務理事6名、参事1名、事務局2名

1、97男子世界選手権大会・熊本実施計画(素案)の再見直しについて

　ジャパンカップ96終了にともない、各役員担当ごとに見直しをすべき点を書類で提出する。これをとりまとめた後、熊本事務局と情報交換を行うこととした。

　スポーツ医学・ハンドボール国際会議について、世界選手権開催中は経済的、人的パワーにおいても余裕のないことから学会開催の条件として以下のような意見が述べられた。補助金については日本協会から50万円限度の補助をする。人的要員については、スポーツ医科学委員会のメンバーで開催する。開催計画、準備、実施等については委員会に委ねる。

　大会中某業者がゴールとネットの件でIHFと接触していたことについて、今後は日本協会を窓口にすることを申し入れ了解を得たことが報告された。また、検定業者会議を開催し、検討しなければならない点について報告された。

2、97男子世界選手権大会の契約について

　4月12日に契約がなされたことが報告された。競技日程、ビデオ放映等、今後具体的に詰めなければならない点を継続検討する。

　競技日程については88試合から80試合に変更になったことから、熊本事務局に前後2日間短縮を具申することとした。

　契約については常務理事会の意見を専務理事、財務理事で集約し、副会長と協議のうえ対処していくこととした。

3、平成8年度全国大会への役員派遣予定(案)について

　役員派遣予定表を配布、一部変更のうえ次回に提案。

4、97男子世界選手権大会について

　本大会まで後365日前の一事業としてイベントを実施する計画。機関誌でも特集を組む。集客対策について、募金活動5千人キャンペーン(仮称)活動計画の検討項目にしたがって担当者を決定。

5、平成9年度全日本総合選手権の開催について

　東京都協会主管辞退に伴い、東京で実行委員会を設けて実施するか、また他の県協会に移管するか、次回検討。

　女子世界選手権に伴う女子の部の開催地の提案がなされ、推進していくこととなった。

6、第3回(2001年)東アジア大会について

　大阪協会との打ち合わせを踏まえ、JOC、大阪市に請願書を提出し、文部省スポーツ課へ実施に向けての情報収集をするなど、実現に向けて継続して努力していくこととなった。

7、報告事項

　強化部より、以下の点について文書報告があった。

　ジャパンカップ及びドイツフェルデンチーム対戦の結果報告。

　全日本男子チームの強化スケジュール。

8、その他

　中国での女子ジュニアアジア選手権に、井常務理事がCOC委員としてテクニカルコミッティーに出席することを了承。

　米国ヒルストンヘッドでのAHF、IHF会議に渡邊副会長、中澤専務理事の出席を了承。

　教職員マスターズ大会について、前回と同様の理由により日本協会主催は再度見送り。

特集 ジャパンカップ96

アイスランドがV

決勝でノルウェーを破る

全日本も健闘、チーム力も着々と向上

満員の決勝戦－熊本県立体育館

ジャパンカップ96熊本が4月9日～14日まで、熊本県内5会場にて、世界の強豪7ケ国を集めて行われた。

A・Bグループ各4ケ国に分かれて予選総当たりリーグが行われ、A組の日本はアメリカに残り3分までリードを奪いながら、不用意なプレーから終了3秒前7mスローを決められ、引き分けとなり、得失点差で決勝トーナメント進出ができなかった。

優勝は長旅の疲れも見せず終始安定したプレーを展開したアイスランドが同じ北欧のノルウェーを前半こそせりあったものの地力を発揮し29－24で振り切った。

3位は若手プレーヤーで固めた韓国が、早い動きと持ち前のフェイント力、スピードを生かして確保。

アトランタ・オリンピックを控え強化を図るアメリカは昨年、年間60試合（国際試合）をこなしてきただけに、過去のバスケットスタイルが消え、すっかり欧州スタイルの組織プレーでメキメキ力をつけてきた感じがある。

ベラルーシは若手主体で今一つまとまりを欠いた。また、中国も前・後半の波がありすぎた。シドニー・オリンピックのために強化を図るオーストラリアはユーゴ人らが帰化し、随所に欧州スタイルのプレーをみせてくれた。

チームづくりの段階といったところ。閉会式では中村順行熊本市助役の挨拶、そして1～3位までチームにメダル、トロフィーが授与された。

また、優秀選手賞監督賞の発表があり、最後に大会のMVPにはアイスランド、No.8ビャルナソンが受賞した。

［優秀選手］
スラヴジェヴィク・ミラン（オーストラリア）
クリモヴェツ・アンドレイ（ベラルーシ）
ワン・シンドウ（中国）
ステファンソン・オウラフエール（アイスランド）
ベク・ウォン・チョル（韓国）
ムッフェタンアンシーメン（ノルウェー）

［最優秀選手］
ビャルナソン・シグルスール（アイスランド）

［優秀監督賞］
イエンソン・ソルビョン（アイスランド）

■予選リーグ

▽4月9日（熊本市総合体育館）

日本 21（11－12, 10－9）21 アメリカ

得点	日本	番号	番号	アメリカ	得点
0	橋本 行弘	1	1	マーノン・クリフ	0
0	高木 浩司	2	2	フェルチョ・デニー	0
4	魚住 和彦	3	3	フィッツジェラルド・トーマス	1
1	木浪 達文	4	4	フィッツジェラルド・ジョゼフ	0
3	冨本 英次	5	5	ベン・スチーヴ	2
0	泉 光介	6	6	ブラウン・デレック	1
6	中山 剛	7	8	ライアン・マット	4
3	岩本 真典	8	10	ケラー・ジョン	3
0	森本 彰宏	9	11	ヒース・デレック	6
1	末岡 政広	10	12	ダチニヴスキー・ヤーロ	0
1	永山 強	11	13	ヤッシア・グレッグ	1
0	井上 耕一	12	15	デイヴ・トニー	3
0	藤井 孝志	13	17	デグラーフ・デイヴィット	0
2	杉山 裕一	14	19	ソーンベリー・マイケル	21
21		計			

［戦評］前半7分までは一進一退の攻防が続いたが、アメリカ10番のジョンの退場をきっかけに日本はマンツーマンディフェンスをしかけペースをつかんだが、18分に日本が退場し11番ヒースのロングなどで再びシーソーゲームとなった。日本のGK橋本の再三の好キープで日本はリズムを取り戻し、岩本らの連続ゴールで前半を10－9折り返した。

後半になり日本は杉山のポストシュートなどで突き放そうとするが、アメリカの11番ヒースの好守にわたる活躍で残り10分で同点、残り5分で1点差の好ゲームとなった。残り4分でペナルティーを

末岡が決め、中山のロングで逃げ切ろうとしたが、残り3秒でヒースのポストプレーが7mスローとなり、決められて同点で終わった。

[アメリカ・オレクシィク監督談話]ここ10年来、日本とは切迫したゲームをしてきたので、試合前から厳しいゲームになると思っていた。最後の数分を除いて日本がゲームを支配していたと思う。タイに持ち込めて非常に嬉しい。アトランタ五輪にむけてチームも強化されたと思う。

[日本・オルソン監督談話]今日のゲームは負けも同然。アメリカのディフェンスに対して攻撃が力負けしていた。今日のゲームでよかったのは、GKの橋本選手である。

得点王に輝いた若き韓国のエース、白選手
(若干19才、177cm、70kg)

▽4月10日（八代市総合体育館）

日本 19（7−8 12−5）13 オーストラリア

得点	日本	番号	番号	オーストラリア	得点
0	橋本 行弘	1	1	パプ・オヴィジュ	0
1	高木 浩司	2	3	カディリク・エディン	2
1	魚住 和彦	3	4	コスタス・クレントン	0
0	木浪 達文	4	5	パヴロヴィク・ラジャン	5
2	冨本 英次	5	6	タリク・ドラガン	1
1	中山 剛	7	7	スラヴジェヴィク・ミラン	1
5	岩本 真典	8	8	マコーマック・ダリル	1
5	末岡 政広	10	9	セスラィック・ドラガン	2
0	永山 強	11	10	ラジュロヴィク・ドラガン	0
0	井上 耕一	12	11	ソルマズ・ドラガン	0
2	藤井 孝志	13	13	ホプナー・ジェイソン	0
0	杉山 裕一	14	14	ジアデ・ジャン・クロード	1
1	田中 茂	15	15	ヤマン・エルガン	0
1	茅場 清	17	16	シェハブ・カリム	0
19		計			13

[戦評] 開始4分、オーストラリア5番、7分に日本・魚住が得点し、10分まで1対1。立ち上がりから双方とも激しいつぶし合いと両GKの活躍もあり、スコアーが動かずにいたが、残り10分、オーストラリア6番、5番の得点で6対3となる。その後、日本も相手の退場が続く中で1点差に詰め寄る。残り3分、7mスローを岩本が決め同点。しかし、残り10秒にオーストラリア9番に決められ、再び8対7と先行されて前半を終了。

後半、日本は岩本、中山の得点で初めてリードを奪う。その後6分以降から相手のラフプレーによる退場につけこみ、岩本、末岡の連続得点により点差を広げた。GK井上の好守もCPを勢いづけ、結局中盤の点差をキープした日本が2戦目にして初勝利を飾った。

[オーストラリア・マクシモヴィ

優勝したアイスランドチーム

優秀選手賞を受けた選手たち

ク監督談話］前半はディフェンス、攻撃が良かった。この大会でいろんなことを学びたい。若手の選手の強化に努めたい。

［日本・オルソン監督談話］スタート直後は危なかった。オーストラリアのディフェンスが良く、ゴールに苦しめられた。後半、ディフェンス、ゴールキーパーが良くなった。

▽4月11日（熊本市総合体育館）

アイスランド 28（14－6、14－11）17 日本

得点	アイスランド	番号	番号	日本	得点
0	フロスタソン・ビャルニ	1	1	橋本　行弘	0
4	オラフソン・ターヴィス	2	2	高木　浩司	0
3	ビヨルフィソン・ビヨルフィン	3	3	魚住　和彦	0
0	ソロドセン・ヴァルガロス	4	5	冨本　英次	3
2	グリムソン・ヴァルディマル	5	6	泉　光介	2
1	ジクルスソン・タグァ	6	7	中山　剛	0
5	ヨハネソン・パトレクール	7	8	岩本　真典	6
2	ビャルナソン・シグルスール	8	9	森本　彰宏	0
1	ステファソン・オウラフュール	9	10	末岡　政広	0
4	シグファトソン・ロゥベルト	10	11	永山　強	2
1	ジグルスソン・シィグフィス	11	12	井上　耕一	0
0	ハラフンケルソン・グスムンドール	12	13	藤井　孝志	1
2	ヴィクトルソン・グナール	13	14	杉山　裕一	1
3	ヨナソン・ユリアス	15	17	茅場　清	2
28		計			17

［戦評］日本は前半3分に7mスローを取るがアイスランドGKのグスムンドールの好セーブで逆速攻を決められ、その後もリズムに乗り切れず単調な攻めになり、連続して速攻を許した。15分、岩本が7mスローを決めて活気づくが、アイスランド9番オゥラフュールのロングや早いパスワークからの力強いカットインなどで着実に得点を重ねた。日本も岩本のロング、永山のステップなどで追撃し、前半を14対16で終了した。

後半に入り日本の攻撃が積極的となり、ディフェンスもよく足が動くようになった。10分までは一進一退の攻防が続いたが、地力に勝るアイスランドが徐々に得点差を開いた。日本は個人技が目立ちセットプレーに課題が残った。

［アイスランド・イエンソン監督談話］今日の試合は、日本にとって勝つか失点を少なくしなければならなかったため、スタートから神経質になっていた。我々のチームはディフェンスが非常に良かった。アイスランド選手権から厳しく強化してきたので、日本チームとの差が出たと思う。

［日本・オルソン監督談話］一部と二部の違いほど差が出て、勝つチャンスは全くなかった。2週間前にチームづくりを始めたので、結果はともかく、日本人選手の精神的な部分に問題がある。神経質になっていたのは負けた理由にはならない。ファイティングスピリットを期待したい。

■7～8位決定戦

▽4月13日（熊本県立総合体育館）

中国 28（15－9、13－10）19 オーストラリア

［戦評］オーストラリアが8番の得点で先行。一方、中国は2分過ぎから8番、13番が交互に得点を重ねる。オーストラリアもシュートを放つが相手GK12番の堅守に加点できない。中盤以降、中国はサイドと45度クロスやスカイプレーなど多彩な攻撃で着実に加点。前半を15対9と中国の6点リードで終了。

後半立ち上がり、中国はミスが目立ち、オーストラリアに立て続けに3連続速攻を許す。特にオーストラリア6番、7番の活躍で15分には2点差まで詰め寄った。しかし、中国もよく踏ん張り、中盤以降リズムを立て直しはじめる。20分にオーストリアが2人退場となり、不利になるや、中国は確実に加点し、28対19のスコアーで勝負を決め、中国の7位、オーストラリアの8位が決定した。

［オーストラリア・ディミトリック団長談話］ディフェンスに力を入れたため、攻撃が弱くなり、ゴールチャンスを逃した場面が多かった。中国チームは動きが速く、特にバックの選手のパスワークが良かった。

［中国・曹監督談話］今回の最終戦に勝てて嬉しいが、反省点も多い。アジアとヨーロッパのチーム

個人得点ランキング

順位	氏名	Team	Line Shot	Wing Shot	Field Shot	Break Through	Fast Break	7m throw -Total	Shot Total	Shot Rale%	Err.	War.	Sus.	出場数 Played
1	白元喆	KOR	—	0－1	21－46	5－6	11－14	4－6	41－73	56.2%	11	2		5
2	ムッタフェタンゲン・シーメン	NOR	3－3	—	13－30	8－10	0－1	16－17	40－61	65.6%	9	1	1	5
3	王心東	CHN	—	1－2	21－45	3－5	8－10	2－2	35－64	54.7%	21	1	3	4
4	ハーヴァング・オイスタイン	NOR	—	5－6	15－31	4－7	4－7	—	28－51	54.0%	14	1	1	5
5	金南鐵	KOR	1－1	1－1	15－33	4－7	3－4	2－3	26－49	53.1%	5			5
6	ヒース・デレック	USA	2－2	2－2	15－35	1－4	3－4	1－2	24－49	49.0%	6	1		5
7	クリモヴェツ・アンドレイ	BLR	9－12	—	6－7	1－2	6－6	—	22－27	81.5%	7	2	4	4
7	シンシャク・アンドレイ	BLR	1－1	—	9－24	1－1	4－8	—	22－43	51.2%	12	1		4
9	ステファンソン・オゥラフュール	ISL	2－2	—	9－16	3－5	6－8	7－9	20－31	64.5%	6	3	2	5
9	ヨナソン・ユリアス	ISL	1－1	—	1－10	3－4	4－5	11－12	20－32	62.5%	6	3	2	5
11	文炳可	KOR	1－2	6－9	—	0－1	2－2	10－11	19－25	76.0%	4	1	1	5
11	岩本真典	JPN	—	—	6－19	3－4	1－1	9－10	19－34	55.9%	7		1	4
13	シグファトソン・ロゥベルト	ISL	14－16	1－1	—	1－2	1－1	—	17－20	85.0%	5	2		5
13	ビャルナソン・シグルスール	ISL	2－3	—	10－17	1－2	4－6	—	17－28	60.7%	2		6	5
15	ライアン・マット	USA	13－14	—	—	1－1	2－3	—	16－18	88.9%	8		1	5
16	閻涛	CHN	3－3	2－3	4－8	4－8	2－4	—	15－26	57.7%	19	1	1	4
16	ペン・スチーブ	USA	—	—	12－28	3－4	—	—	15－32	46.9%	10		1	5
18	トレフセン・シュール・ブョー	NOR	0－1	5－6	1－1	1－1	7－9	—	14－18	77.8%	3	1	1	5
18	白相舒	KOR	5－6	1－1	1－1	—	7－10	—	14－18	77.8%	13	1	1	5
18	ヨハネソン・パトレクール	ISL	0－2	—	10－14	3－3	1－1	—	14－20	70.0%	7	1	3	5
18	グリムソン・ヴァルディマル	ISL	3－4	5－13	0－2	2－2	3－7	1－2	14－30	46.7%	9		1	5

と対戦できて良い経験になった。

■準決勝

▽4月13日(熊本県立総合体育館)

ノルウェー 29（14－11 / 15－7）18 アメリカ

［戦評］試合開始早々、両チームとも右の3番フレッドリック（ノルウェー）とデレック（アメリカ）のロングシュートで激しい点の取り合いとなる予感のするスタートとなった。アメリカは6番と11番の滞空力のある攻撃に加え、8番の高さを生かしたポストプレーで先行するノルウェーを追いかけるが、10分過ぎから連続失点して苦しい展開となった。ミスを速攻につなげるノルウェーは、8番のフェイントが決まり出し、前半は14－11で終了。

後半、退場者を出したノルウェーだが、GKの好守もあり、点差は徐々に広がっていく。ノルウェーの左右のフローターのロング、そしてセンター2番の幅広い攻撃をアメリカは守ることができなかった。後半7点のうち5点がポストプレーによる得点で、前半の力強いプレーが見れなくなったのは残念だった。多様な攻撃のノルウェーだったが、後半だけで退場者が5名を出し、DFの課題とスタミナへの心配かうかがえた。速攻による得点をもっと両チームに期待したい。

［ノルウェー・マドセン監督談話］

決勝に進むことができて喜んでいる。試合内容にも満足である。特にゴールキーパーのエゲ選手の働きが目立ち、速攻につながり、後半の内容が非常に良くなった。

［アメリカ・オレクシェク監督談話］ノルウェーチームを前半手こずらせることができて喜んでいる。後半、違った方策を試みて、選手が混乱したかもしれないが、自分で考え、行動してくれたので無駄ではなかった。

アイスランド 27（12－13 / 15－11）24 韓国

［戦評］前半、アイスランド5番の連続得点で先行を許したが、韓国はプレスディフェンスと素早い動きでアイスランドのミスを誘い、それとGK12番の堅守によって得点を加えた。しかし、韓国4番の退場によりアイスランドに3連続得点を許し、流れはアイスランドに移った。12－13と1点差までアイスランドが追い上げ前半を終了。

後半たち上がり、韓国は2連続得点し波に乗ろうとするが、アイスランドの高さとパワーで点差を縮められ、15分過ぎ同点となる。その後、韓国のミスを速攻に生かしたアイスランドが確実に加点していき、後半を15－11とリードし、27対24でアイスランドが勝利を飾った。

［アイスランド・イエンソン監督談話］大変きつい試合で、前半は攻撃的なディフェンスにとまどったが、後半、韓国に疲れが見えたので3つのゴールを決めて勝利を収めることができた。すべての試合に勝つ意気ごみで大会に臨み、それが実現できて喜んでいる。

■5～6位決定戦

▽4月14日(熊本県立総合体育館)

ベラルーシ 24（12－10 / 12－13）23 日本

得点	ベラルーシ	番号	番号	日本	得点
0	パプロガ・イゴール	1	1	橋本　行弘	0
2	ゴルディオノク・ユーリ	2	2	高木　浩司	0
3	コヴァレンコ・セルゲイ	3	3	魚住　和彦	2
2	ナガノフ・ウラディミール	4	5	木浪　達文	4
0	ラキゾ・アントン	5	6	泉　光介	0
0	チャルニコフ・イゴール	6	7	中山　剛	5
11	シンジャク・アンドレイ	7	8	岩本　真典	5
0	コスティオチック・ウラディミール	8	9	森本　彰宏	0
5	クリモヴェツ・アンドレイ	9	10	末岡　政広	2
0	ネクハイチック・マキシム	10	11	永山　強	1
0	ラトケヴィッチ・ディミトリ	11	12	井上　耕一	0
1	オウボジェンコ・セルゲイ	13	13	藤井　孝志	2
0	ウェヒトチェンコ・ヴィタリ	16	14	杉山　裕一	1
0	スヴィリデンコ・ゲオルギ	19	17	茅場　清	1
24		計			23

［戦評］立ち上がり3番・魚住のロングで先行し、10分過ぎまでは日本がリードを保っていたが、ベラルーシも激しいディフェンスから速攻につなげ、好ゲームとなった。流れが傾きかけた15分過ぎに

GK井上が再三相手のノーマーク速攻を好守し、それに応えるように7番・中山、11番・永山がファイトあふれるシュートを決め、離されなかった。ベラルーシは高さだけでなく、スピードある速攻やパスワークなどで日本ディフェンスをゆさぶり、特に7番アンドレイはリストの効いた7mスローを5本すべて成功させた。前半を12―10とベラルーシの2点リードで終了。

後半になって、岩本の7mスローで会場も盛り上がり、追いついた後は、両チームともディフェンスを5―1シフトに変え、ポストの守りを固めた。残り8分、ついに日本は21対20と逆転したが、ベラルーシも7番、9番のパワフルなシュートで踏ん張り、最後は3番セルゲイも高さと左ききの利点を生かしたシュートが日本ゴールにつきささり、1点差でベラルーシが勝利した。日本GK井上の好守が試合を引き締めたといえる。

［ベラルーシ・ミロノビッチ監督談話］今大会は大成功であり、世界最高の水準だと感じている。日本チームは攻守ともに予想以上で、細かい技やパスがすばらしく、苦戦した。世界大会では、よりすばらしい試合をご覧にいれたい。

［日本・オルソン監督談話］精神面を向上させて、ヨーロッパのチームとどう対戦するかが課題であったが、今日の試合は、その大きなステップアップになった。ミスは多かったけれども全体として成果があり、ジャパンカップには満足している。技術・体力・精神力をさらに向上させて世界大会ではよりよいチームを見せたい。

■3～4位決定戦

▽4月14日（熊本県立総合体育館）

韓国 28（13―11 15―13）24 アメリカ

［戦評］開始40秒、アメリカ2番が先取点。韓国も1分過ぎ7番が決めて1対1。韓国は17番のステップシュートや巧みな素早いパスワークでカットインし、得点を重ねる。一方、アメリカは韓国の3―3ディフェンスに攻めあぐんだが、高さを生かした攻撃で追撃する。20分過ぎからアメリカは大型のポスト17番をうまく使って反撃するが、韓国も5番のロング、17番、13番の活躍で加点し、13対11と韓国の2点リードで前半終了。

後半に入り、1―5ディフェンスの韓国をアメリカ5番、2番が割り込み、開始5分で同点に追いつくが、韓国もすぐさま17番、7番が速攻などで3点連取して突き放す。中盤にアメリカはポストで7mスローを奪い、再三同点まで追いつくが逆転できなかった。韓国は残り5分に速攻から17番、4番の見事なスカイプレーで4点差とし、試合を決定づけ、結局28

GK阻止率ランキング

順位	名前	Team	Line Shot	Wing Shot	Field Shot	Break Through	Fast Break	Total	7m Save	%
1	エーゲ・スタイナル	NOR	5－17	4－9	33－59	6－9	7－21	55－115	4－7	57.1%
2	ハラフンケルソン・グスムンドール	ISL	2－11	5－10	29－50	5－12	3－10	44－93	1－6	16.7%
3	パプロガ・イゴール	BLR	3－8	1－6	29－55	2－7	4－15	39－91	1－8	12.5%
4	王文武	CHN	3－15	8－11	15－22	5－11	7－29	38－88	0－11	0.0%
5	何軍	CHN	4－12	5－15	15－22	2－6	11－37	37－92	4－8	50.0%
6	韓景泰	KOR	6－17	4－8	17－22	7－15	2－6	36－68	1－4	25.0%
7	フロスタソン・ビャルニ	ISL	1－6	4－8	23－30	0－2	5－14	33－60	0－3	0.0%
8	李碩炯	KOR	6－16	4－11	14－30	5－16	3－11	32－84	0－4	0.0%
8	マーノン・クリフ	USA	0－5	3－7	19－38	4－19	6－19	32－88	1－8	12.5%
10	シェハブ・カリム	AUS	0－7	3－12	10－22	2－5	14－25	29－71	2－6	33.3%

予選ラウンド最終結果

Aグループ

	オーストラリア	アイスランド	アメリカ	日本	試合数	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
オーストラリア		●19－29	●16－26	●13－19	3	0	0	3	0	48	74	－26	4
アイスランド	○29－19		○30－24	○28－17	3	3	0	0	6	87	60	＋27	1
アメリカ	○26－16	●24－30		△21－21	3	1	1	1	3	71	67	＋4	2
日本	○19－13	●17－28	△21－21		3	1	1	1	3	57	62	－5	3

Bグループ

	ベラルーシ	中国	韓国	ノルウェー	試合数	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
ベラルーシ		○40－25	●23－25	●18－23	3	1	0	2	2	81	73	＋8	3
中国	●25－40		●13－34	●22－27	3	0	0	3	0	60	101	－41	4
韓国	○25－23	○34－13		●30－32	3	2	0	1	4	89	68	＋21	2
ノルウェー	○23－18	○27－22	○32－30		3	3	0	0	6	82	70	＋12	1

対24のスコアで韓国が勝った。

［韓国・金監督談話］練習不足で心配していたが、3位になれて嬉しい。若い選手が自信をもつことができて喜んでいる。海外にいる選手を集めてより良いチームで世界大会に臨みたい。

［アメリカ・オレクシィク監督談話］韓国はよく訓練されたチームであった。今大会に参加し、貴重な体験ができ感謝している。オリンピックにむけて強化していきたい。

■決勝

▽4月14日（熊本県立総合体育館）

アイスランド 29（14－13、15－11）24 ノルウェー

得点	アイスランド	番号	番号	ノルウェー	得点
0	フロスタソン・ピャルニ	1	1	エーゲ・スタイナル	0
0	オラフソン・ターヴィス	2	2	ムッフェタンゲン・シーメン	9
3	ビヨルフィソン・ビヨルフィン	3	3	ヴァトネ・スティアン・フレドリク	1
0	ソロドセン・ヴァルガロス	4	4	ラウリンツウン・ヤン・トーマス	1
1	グリムソン・ヴァルディマル	5	5	トレフセン・シュール・ヴョー	3
3	ジクルスソン・タグァ	6	6	サンド・スタイン・オラフ	0
8	ヨハネソン・パトレクール	7	7	ガルシュタ・オイスタイン	0
3	ビャルナソン・シグルスール	8	8	ハーヴァング・オイスタイン	3
5	ステファンソン・オウラフュール	9	9	ヤンセン・ヨニー	0
4	シグファトソン・ロッベルト	10	11	ウィンスタネス・アイピン	1
0	ジグルスソン・シィグフィス	11	12	シェイエ・フローデ	0
0	ハラフンケルソン・グスムンドール	12	13	ラーシュ・スティグ	6
0	ヴィクトルソン・グナール	13	15	アルランセン・ガィール	0
2	ヨナソン・ユリアス	15	17	ハンセン・クリスチャン	0
29		計			24

［戦評］前半、ノルウェーのムッフェタンゲーンのステップシュートでスタートしたゲームは、15分過ぎまでゆっくりした攻防で一進一退を繰り広げた。15分過ぎにアイスランドはポストシュートで2点リードしたが、アイスランドのシュートミスやノルウェーGKの好守で同点となり、その後も一進一退の展開で、14対13とアイスランドの1点リードで前半を終了した。

後半の立ち上がり、アイスランドのシグルスソンのミドルシュートでスタートし、ノルウェーのシュートミスやアイスランドの正確なシュートが決まり、2点差から5連続得点し、7点差に広がった。20分過ぎにノルウェーは相手ヨハネソンにマンツーマンディフェンスで攻撃のかく乱を試みるが、5点差に縮めることしかできず、29対24でアイスランドが勝利を飾った。

［アイスランド・イエンソン監督談話］前・後半の攻撃パターンを変えたことが勝利につながった。全試合勝つつもりで臨み、それが実現できて喜んでいる。

［ノルウェー・マドセン監督談話］試合内容には不満である。全員ディフェンス、全員オフェンスで臨んだが、アイスランドには通用しなかった。

ジャパンカップ'96・熊本

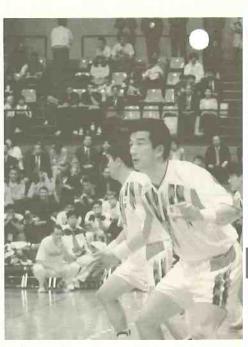
日本対アイスランド戦

ハーフタイムショー

グラフ

日本協会渡邊副会長

日本対ベラルーシ戦

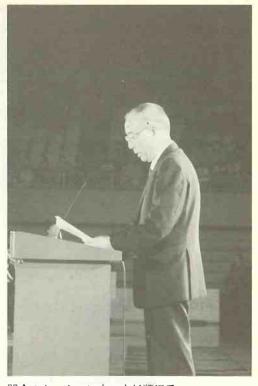
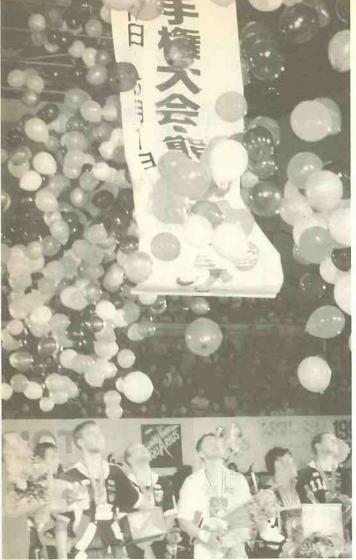
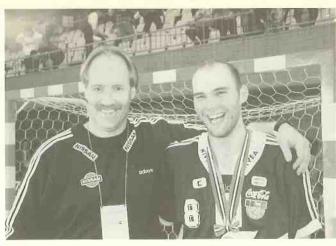
和装の女性と記念写真を撮るオーストラリアチーム

日本対アイスランド戦

アイスランド対ノルウェー

閉会のあいさつに立つ中村順行氏

韓国対アイスランド　韓国(白)17番のシュート

アイスランド監督と最優秀選手

閉会式

記者会見（左端は日本オルソン監督、右端はアメリカ監督）

第15回 男子世界選手権 熊本だより

第15回世界選手権大会 熊本の契約を交わす

日本ハンドボール協会とIHF（国際ハンドボール連盟）は4月12日、熊本市内ホテルにてIHFから専務理事レイモンドハーン、会計担当のブロック氏と日本協会副会長・渡邊佳英氏との間で第15回男子世界選手権大会の契約にサインを交わした。ハーン氏は契約書を持ち帰り、IHF会長のサインのあと再度熊本県知事及び熊本市長がサインをすることになっている。

試合日程は5月10日〜6月1日の予定でIHFに提出しているが、最終決定はIHFの理事会が5月に行われ、そこで討議される予定。

これは昨年のIHF理事会でベスト16位チームのあとの敗者復活戦をなくすことが決定し、従来の88ゲームから80ゲームになったためで、日程も場合によっては短縮されることも予想されている。

組織委員会熊本 事務局大幅に強化

4月1日付けにて熊本県、熊本市、また山鹿市、八代市から異動があり、23名から44名に事務局の強化が図られた。事務総長に前田氏が新たに就任した。

- 前田総長
  - 吉田局長
    - 出田次長・村上次長
      - 総務部長（村上）
        - 総務課（長）（高嶋） 他6名
        - 外（山本） 他3名
      - 広報事業部長（黒田）
        - 広報催事課（岡村） 他5名
        - 大会支援課（古川） 他6名
      - 業務部長（宮原）
        - 業務課（藤山） 他4名
      - 競技運営部長（出田）
        - 競技課（西川） 他4名
        - 会場管理課（清田） 他2名

［県協会　他2名　森理事長］

1995年度記者会賞に 井上耕一、田村啓子が選ばれる

東京運動記者クラブハンドボール分科会は、4月12日、95年度の記者会賞に日本リーグ2連覇の立役者のGK井上耕一（中村荷役）と新人ながらセンタープレーヤーとして大活躍した田村啓子（オムロン）を選んだ。井上、田村両選手とも初の受賞である。

［井上耕一（いのうえ　こういち）］
1967年10月4日生まれ、28歳。184cm、83kg。右投げ。GK。神奈川県出身。川崎北高校—東海大学。

［田村啓子（たむら　けいこ）］
1972年9月29日生まれ、23歳。166cm、60kg。右投げ。CP。山口県出身。華陵高校—武庫川女子大学。

世界No.1韓国チームがやってくる 6月、広島で女子の国際大会が開催される

第2回広島国際ハンドボール大会が6月19日〜22日までの4日間、広島氏において開催される。

参加チームは以下の通り。

・全日本
・韓国ナショナルチーム
・ウクライナナショナルチーム（予定）
・中国クラブチーム

（試合形式）

総当たりリーグ戦。

（大会会場）

広島市東区スポーツセンター

（問い合わせ先）

広島県ハンドボール協会

☎０８２－２４３－０２２１

【試合日程】

■６月20日

18時30分　韓国対中国

20時　ウクライナ対日本

■６月21日

18時30分　ウクライナ対中国

20時　日本対韓国

■６月22日

16時30分　ウクライナ対韓国

18時　日本対中国

第１回世界学生選手権大会参加メンバー33年ぶりの再会

第１回の世界学生選手権大会は昭和38年１月１日～６日までスウェーデンで行われ、団長・棚橋義輝氏、監督・渡辺一己氏、コーチ・勝繁夫氏、選手15名が参加したメンバーが33年ぶりに３月29日、東京新宿「賀茂川」にて集合、昔話に遅くまで話がはずみ、来年の熊本の世界大会には全員で応援に行こうと誓い合った。

当時のメンバーは次の通り。

（○印は今回の出席者）

団長　棚橋　義輝

監督　渡辺　一己　○

コーチ　勝　繁夫

ＧＫ

谷　義信（芝浦工大）○

奥本　義昭（同　大）○

ＦＰ

安達　精太（立　大）○

中根　敏男（立　大）○

與縄　義昭（立　大）○

諏訪　紀一（慶　大）

田口　敬蔵（法　大）○

坂井　弘元（中　大）○

藤原　侑（日体大）○

村田　陽光（関　学）

森末　和裕（関　学）

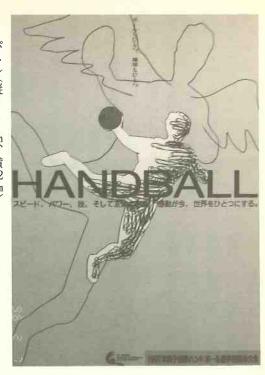
大高　恒晴（甲南大）○

荘林　康次（神戸大）○

浅野　和郎（京都大）

市原　則之（広島商大）○

アートパネル（ハンドボール）ベラルーシ監督に贈呈

世界ハンドボールをテーマに昨年熊本県が公募し、屋外広告物コンクールで最優秀作品となったア

ートパネル（縦102cm、横72cm）がジャパンカップの会場に飾ってあるのを見たベラルーシ監督ミロノヴィッチ・シコパルタク氏が大変気に入り、申し入れがあった。この作品は熊本市在住の石原未散（ミチル）さんが制作したもので、国際親善のお役に立てればということでプレゼントしたもの。ハンドボールのシュートをうまくとらえた作品で直接手渡されたシュパルタク監督は大変感激していた。

コンチネンタル・レフェリーに 仲田稔、植村彰氏合格

コンチネンタル・レフェリーコースが、3月30日～4月5日まで韓国・ソウルにてIHF・エリック・エリアスPRC委員長、オイビン・ボルスタットPRC副委員長、チュンジョー・パクPRC委員の講師で行われ、日本から受験した仲田、植村両氏がめでたく合格し、国際舞台へ一歩前進した。

日程は講義、実技研修、そしてクーパーテスト、フィットネステスト、評価、などがあり、それぞれ厳しい評価がIHFからくだされた。なお、日本から後藤、清水、浜田、大塚の各氏も特別参加した。

アラコ九州㈱ 日本リーグ加盟

平成8年度より九州佐賀県に本拠を置くアラコ九州㈱が新たに日本リーグに加盟した。

【アラコ九州の概要】

資本金　4億8000万円

設立　平成3年8月1日

本社　佐賀県神崎郡神崎町大字鶴1600

TEL　0952－52－7111

FAX　0952－52－7090

オーナー　杉山順一（代表取締役社長）

部長　宮崎　務（常務取締役）

監督　田中靖浩

事業内容　乗用車内装品の製造・販売　マークⅡのシートセット、ドアトリム他

指導委員会から C級コーチ合格者

このほど㈶日本体育協会より、平成8年3月31日付けをもって、以下の5名の方々が、公認C級ハンドボールコーチ養成課程を修了されたことが発表されました。

吉田　久士（国士館大学）
中川　昌幸（関西大学）
南本　雅弘（城山高校）
松本　隆栄（明治大学）
池ノ上孝司（ソニー国分）

国士館大学の吉田先生は平成4年度に受講者になられましたが、お忙しいなか、まる4年の修了期限いっぱいで修了なさいました。ご苦労のほどに敬意を表したいと思います。また、池ノ上氏は、ソニー国分で日本リーグの采配を振るいながらの修了でありました。日程的にも大変ななか、ご苦労様でした。

修了者の皆様のチームのご発展と、指導者としてのご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

高野亮全日本女子コーチが辞任

高野コーチは昨年9年ぶりに出場した世界選手権大会では樫塚監督の知恵袋として手腕を発揮、特に全日本では攻撃を担当。決勝トーナメント進出するなどの躍進に寄与したが、このほど校務の関係で本人より辞任の申し出があった。今後、全日本女子は当面、樫塚監督、西窪コーチの2人でチームを引っ張っていくことになる。

各地で国際親善試合が行われる

日独親善国際ハントボール大会
フェルデンチーム日本各地で5試合を行う

■4月3日（東京）
全　日　本22（10−6 12−11）17フェルデン

■4月5日（福井）
フェルデン28（16−11 12−10）21北陸電力

■4月7日（大阪）
フェルデン21（10−11 11−9）20全日本アンダー22

［戦評］立ち上がり、日本5番・野村のシュートで先行し、その後一進一退のゲーム展開で前半は日本が1点をリードして終了。後半に入ると、10分過ぎに日本は3点のリードを奪い、そのまま逃げ切るかに思われたが、大切な場面でのミスが目立ち、20分には逆に3点のリードを許し、最後は1点差でタイムアップ。

今回のTSUフェルデンチームの来日に際し、若手の選手にゲームができるチャンスを与えて下さったことに心から感謝を申し上げます。技術・戦術、そして精神面においても、まだ未熟ではありますが、"スピード溢れるハンドボール"を合言葉に、試合に臨みました。結果は基本的な技術ミスから逆転負けを喫しましたが、体格・パワーの差を身をもって感じると共に、選手は個々の課題を見つけたと思います。その課題を克服するためにも今後の強化合宿ではより一層精進するつもりでおります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（全日本アンダー22監督・松井幸嗣）

■4月9日（徳山）
フェルデン26（10−11 16−7）18トクヤマ

■4月10日（広島）
フェルデン24（10−14 14−10）24広島選抜

日・中　国際親善試合

ジャパンカップ終了後、中国ナショナルチームは広島で2ゲーム、四日市、名古屋でそれぞれゲームを行ったが、1勝3敗と不振、日本リーグ勢の活躍が光った。

■4月16日（広島）
湧永製薬29（13−13 16−9）22中　国

■4月17日（広島）
広島選抜29（16−9 13−12）21中　国

■4月19日（四日市）
中　国25（14−9 11−14）23本田技研

■4月20日（名古屋）
大同特殊鋼30（14−13 16−15）28中　国

日・オーストラリア国際親善試合

■4月15日（熊本）
熊本教員24（10−17 14−5）22オーストラリア

■4月16日（熊本）
オーストラリア19（9−10 10−6）16本田技研熊本

■4月17日（佐賀）
アラコ九州25（14−9 11−11）20オーストラリア

列島縦断

神奈川県ハンドボール協会

「かながわ・ゆめ国体」に向かって

平成10年第53回国民体育大会「かながわ・ゆめ国体」まで、あと2年となりました。神奈川県は、県民あげて都市型国体を実現しようとしています。すべての人の輝く未来への「ゆめ」と、だれもが健康で生きいきと暮らせるスポーツレクリエーション社会へ向けた、かながわ21世紀の「ゆめ」を国民体育大会に託しています。この大会を契機として、県民スポーツの水準を向上させ、スポーツのある街づくり、スポーツのある暮らしづくり、環境づくりをしています。

神奈川県ハンドボール協会では、この方針に基づき、平成10年に向かって選手強化、審判員の養成、競技役員の研修、協会組織のシステムづくりなどを行っています。また、会場地となります、横浜市・川崎市の行政機関と連携し、地元の子供たちにハンドボールを理解してもらえるように、「ちびっ子ハンドボール教室」や「日本リーグ・チャンピオンと遊ぼう」などハンドボールを知らせる機会をつくっています。平成7年は、横浜商工高等学校が、春の高校選抜大会で優勝、夏の全国高等学校総合体育大会で優勝、秋の国民体育大会で優勝、高校生の全国大会のタイトル制覇し、全国大会三冠の栄誉を達成しました。このことは、神奈川県ハンドボールのトップチームとして、全国にその名を成さしめ真の実力を発揮することができました。長い間、横浜商工高等学校渡辺監督は、選手と共に励み、努力し、その結果が今回の貴重な成績となって残すことができました。そして、神奈川県のハンドボール技術のレベルアップに大いに役立ち、選手たちの自信とエネルギーとなっています。

平成8年は、「神奈川生まれの、神奈川育ち」の選手が、第53回国民体育大会に向かって強化候補指定選手の制度が始まり、いよいよ本格的にその活動が開始されます。また、第51回国民体育大会関東ブロック予選会を本県で開催します。今年から、成年2部が廃止され、成年男子・女子、少年男子・女子の4種別によって代表権が争われます。本県選手は第51回広島国体に向けて全種別が予選を通過できることを目指しています。

平成9年は、第53回国民体育大会の前年となり、本大会開催準備もいよいよ本格的となり、協会組織も強化され、運営準備体制も整ってまいります。8月には、第2回ジャパン・オープン・ハンドボールトーナメント大会を、国体リハーサル大会として開催し、全国の皆様に満足して戴ける大会にしたいと思っています。11月には、全日本大学選手権大会を川崎市で開催することになりました。全国の大学生が、本県に集い「かながわ・ゆめ国体」の前哨戦として、大学生の最高レベルの技術にふれることができます。神奈川県内の大学チームの活躍を期待することは勿論のこと、ハイレベルなゲームが展開されることから、神奈川ハンドボールの技術向上に役立つことは当然のことといえるでしょう。

平成10年は、「かながわ・ゆめ国体」の年を迎えます。いつでも、どこでも、だれもがスポーツを楽しめる、21世紀のスポーツレクリエーション社会かながわ」の実現を目指します。この年は、「国体イヤー」として、5月3日～5日まで「開催祭」。5月～8月まで、「スポーツ芸術祭」、「スポーツ科学祭」、「スポーツ交流祭」。9月12日～29日まで、第53回国民体育大会夏季大会、5競技、1公開競技。10月24日～29日まで、第53回国民体育大会秋季大会、31競技、2公開競技。11月14日～15日まで、「閉幕祭」が開かれ、国体イヤーの1年間を閉じることとなります。

神奈川県ハンドボール協会は、加盟351団体を抱え、組織的に大きな協会として、平素たいへん苦労しています。しかし、加盟団体が機能的に活動できるよう、協会運営に全精力を酷使しています。近年、スポーツに対する考え方が多様化する今日、本県としても、国体が新しい理想像に向かって想像されることを願っています。みんなの手で、みんなの力で、選手を支え、みんなの協力で成果をあげ、神奈川県のハンドボールが、ますます地域に根をおろしたスポーツとして、みんなに愛され、親しまれるスポーツとなることを願っています。（文責・佐分正典）

第4回アジア女子ジュニア選手権大会

全日本女子ジュニアメンバー決まる

　第4回アジア女子ジュニア選手権大会は、6月12日～17日まで、中国・成都市の労働者文化ホールにて開催される。

　この大会には、日本の他、中国、韓国、カザフスタンが参加することになっている。前回は、日本、中国、韓国、台湾が参加したが、今回は台湾は参加しない。なお、この大会は来年の第11回世界女子ジュニア選手権大会の予選も兼ねている重要な大会となる。

　当初8月に予定されていたのが急に変更になり、全日本女子ジュニアメンバーも急遽選抜され、まだチーム力は十分とは言えないが、前回、世界女子ジュニア選手権大会では、田中美音子（大和銀行）が大会の得点王になるなど、女子ジュニアの活躍が素晴しかっただけに、いい成績を残して本番への切符を獲得したいところである。

　アジアからは3つの枠が与えられているが、韓国が一歩抜けているものの、中国、カザフスタン、日本とも同じレベルにあると伝えられているだけに一戦一戦大事な戦いとなる。

　抽選は6月10日、成都で行われることになっている。また、この大会への出場資格が決められていて、1977年1月以降生まれとなっている。全日本女子ジュニアは12名の社会人と4名の学生の布陣となっている。

　全日本女子ジュニア監督には前回コーチだった井上亮一氏（夙川学院高校監督）が昨年就任、世界大会に向けてどんな手腕でチームをつくりあげるか期待がかかる。

　また、井上監督をサポートするのが前回に引き続き志賀良弘コーチ（大和銀行監督）と新たにコーチに就任した平賀達也氏（三重県暁高校監督）である。

第4回アジア女子ジュニア選手権派遣選手名簿

（中国　成都　6月12日～17日）

役職	氏名	所属先	生年月日
団長	井　薫	オムロン	1938. 5.29
監督	井上　亮一	夙川学院高校	1947. 7.17
コーチ	志賀　良弘	大和銀行	1856.11.19
コーチ	平賀　達也	暁高校	1951. 7. 4
ドクター	阪田　武志	信原病院	1963. 7.12
トレーナー	西村　英治	熊本整形外科病院	1966. 3.24
レフェリー	武智　誠治	松山北高校	1963. 4.29
〃	松原　誠起	愛媛県総合運動公園	1964. 7.29

選手	氏名	所属先名	出身校	生年月日	出身地
G・K	吉田　由香	オムロン	熊本国府高校	1977. 8.19	熊本県
	飛田季美子	大和銀行	福島女子高校	1977. 9.26	大阪府
	田中　麻美	大阪体大学	府立洛北高校	1978. 1. 5	京都府
C・P	山下　麗子	大和銀行	大谷高校	1977.10. 5	大阪府
	巽　奈　歩	大和銀行	福島女子高校	1978. 1.19	大阪府
	村上美代志	日本体育大学	緑が丘高校	1977. 8.23	福島県
	中村　友美	北国銀行	福井商業高校	1977. 6.23	石川県
	村上　麻美	筑波大学	福井商業高校	1977. 7.31	福井県
	酒井久美子	大阪教育大学	福井商業高校	1977.11.21	福井県
	濱田　香織	北国銀行	小松商業高校	1977. 7. 7	石川県
	藤野　正美	イズミ	岩国商業高校	1977. 8. 1	山口県
	佐久川ひとみ	大崎電気	浦添高校	1977. 7.21	沖縄県
	山崎　理恵	立山アルミ	福島女子高校	1977.11. 4	大阪府
	萱谷　美枝	ブラザー工業	名短付属高校	1977. 5.31	愛知県
	稲吉　希穂	シャトレーゼ	水海道第二高	1977. 9.28	茨城県
	穂積　知紘	大崎電気	夙川学院高校	1978. 1.11	兵庫県

の条件

ゼロからのスタート
中学から高校まで～
幅広い指導に取り組んで

山口県・岩国工業高校　青木　操

私がハンドボールを教える立場になったのは昭和24年、岩国工業高校に着任して部を設立してからです。

その時代の社会情勢は、今日とでは何もかも大きく変わっています。また当時の私は、全くの素人でハンドボールのハの字も知らない土地柄で零から始めました。今の指導者の皆さんとは知識も経験も比較になりません。このような環境の中で出発した私は、部員を指導すると云うよりも部員とともに走る練習が主体でした。練習方法・練習内容を模索する時代も永く続きました。

やがて幸か不幸か昭和37年・11人制から7人制にルールが改正され、サッカーや野球ができない僻地の中学校体育連盟支部からハンドボール講習会の依頼があり度々でかけました。そうしてハンドボールが体育の授業の中にとり入れられました。走・跳・投・の要素をもつハンドボールがこの地域に受けたようです。熱血感の先生方も現われ年毎にチームが誕生しました。当時、中学校では野球が全盛期で、これに対抗する思いがあったようです。この頃、中学校の分校の男女のチームが県大会、男女優勝して話題になりました。

私の指導も次第に中学生・高校生が対象になり、指導方針・練習方法・内容など多岐にわたり困惑しました。思いつきを記したメモカード・一日の練習時間に合せた練習カードをつくり始めたのは、この頃からです。晩酌をしながら反省し、明日のカードを作るのが楽しみになりました。しかし一つの悩みがありました。

それは中学校で指導した選手が高校進学の際バラバラになることでどうすることもできませんでした。しかしハンドボールの普及と底辺の拡大には確かな手応えがありました。中学校・高校・地元企業・クラブチームと次々にチームが誕生しました。

この黎明期を迎えるまで、岩国工業高校と中学校の指導と二足の草鞋を履いて20年たっていました。中学校と高等学校のハンドボールのパイプが通じ始め、昭和44年、岩国工業高校に各中学校のエース級の選手が10数名入部しました。もう素人ではありません。全国的大会の経験は6度ありました。こんなに選手が揃ったのは初めてでした。各ポジションに2名をつけて競り合いの練習です。勿論全国制覇を目標に、これまでの経験を結集して質・量共に厳しい練習に取り組みました。結果は46年の和歌山国体初優勝として表われました。このことが岩国市及び近郊に反響を呼んで、中学生が全国大会へ5つの高校が全国的大会へ出場しました。もし私が岩国工業高校に固執し続けていたら現在の発展がなかったと思う。

中学校と高校のハンドボールのパイプが完全に一本化した現在、やるべきことは中学校で優秀な人材を発掘し育てることです。かつて、私の教え子の中に唯一人、日の丸をつけてオリンピックに出場した選手がいます。〝夢をもう一度〟と決意を新たに努力を続けたい。

「戦績」

国民体育大会　優勝　4回
全国選抜大会　優勝　2回
インターハイ　準優勝　3回

駆け出しの監督として、指導の仕方が分からず選手もさっぱり集まらず悩んでいる頃でした。県内に高校女子ハンドボール界で、常にトップクラスの選手を育てている涌谷高校の山崎先生の姿、言葉を思い浮かべました。全国的にトップクラスの監督の試合会場での言葉、姿、選手に対しての指導、それを思い浮かべ自分なりにイメージトレーニングをさせて頂きました。他の県内の指導者が、新しいトレーニング方法を取り入れている時に、逆に涌谷高の強さの秘訣を自分なりに見つめました。愛好会からつくった部活ですので、選手の意識の問題の解決、二流、三流の生徒をどうすれば一流の選手に育てられるか、随分考えさせられました。

その結果、部員に対して必ず一つのポジションを与える事。その反復練習に時間をかけ、やる気を起こさせ、責任を持たせる、ということが大切だと考えるようになりました。そうすれば必ず一人は、その中から選手としてスペシャリストになるものです。能力が低くとも、必ず職人に抱くイメージで選手は育ちます。

個人の練習方法はいつも工夫し、グラウンドに長く立ち、選手を手取り足取り指導することが大切だと思います。その熱心さや面倒見良さで選手の信頼を得ての部活運営だと思います。それに私個人のことですが、経営者タイプの指導者はチームに必要だと考えます。コーチングスタッフを整えトレーニングを組織図化し、組織的にチームあるいは選手の強化を図る、合宿や県外遠征進路を計画的に然る可き所に働きかける。そのための資金や後援組織づくり、予算を獲得して、才能を発揮する。選手の生活面の問題解決にも多方面から力を尽くす。

指導者

どんな選手にも一日一声をかけて～面倒見の良さで選手の信頼を得る

宮城県・聖和学園高校　森　順一

現場では、他人のやり方への非難を耳にする事があります。いわく「選手を見るだけでは、いくら熱心にやってもしれているよ」でも自分の手で練習を必ずいじるということです。

あとは、一日一声運動です。どんな選手にも、一日に一回は声をかけてやる。例え「元気か」の一声でも。私にとって唯一の具体的なコーチング技法です。そうは言っても40人もいる部員に、毎日一人も漏らさずに声をかけるのは大変です。

条件その1、監督は運動を見る目を持つこと。これは非常に重要な意味を持ちます。運動を見る目は、組織的な指導訓練で身につくとされます。

今回は女子選手の指導について考えるはずでしたが、残り字数はもう僅かとなってしまいました。しかし、この問題は女子を指導していると、しょっちゅうぶつかるのです。みなさんも女子をコーチするとき、心理的な面で注意して下さい。

それをまとめると、①意欲、やる気は男子に比べると多少低い。生活面をきちんと拘束しなければ、女子選手の場合やっていけない。②競技生活を送ることに対する疑問や不安を多く持っているので周りの状況を断ち切るだけの価値や魅力を見い出して取り組ませることが必要だと思います。

【経歴】
仙台大1期生(仙台大創部主将、監督)
聖和学園高教員　聖和学園高創部15年目
インターハイ12回　選抜7回　国体10回出場
全国優勝2回(宮城インターハイ・とびうめ国体)
選抜3位　国体3位・ベスト8数回

私のチームづくり

“沖縄独特のハンドボールをする”と言われるようなチームを目指して

パームヒルズクラブ　**東江正作**

私のチームづくりというかハンドボール観に多大な影響を受けたのは大崎電気男子監督の斉藤幸司氏で基本的な足のさばきかた、パスのタイミング、ディフェンスとの間合い、速攻の走るタイミング、ディフェンスの呼吸の読み方、ボールにたいする執着心等、現在私がコーチしていることを、この時期に培ったと言っても過言ではありません。

パームヒルズクラブは、年間を通して週3回の練習というのが基本となっています。クラブチームですから、選手の職業もさまざまで教員、公務員、会社員等で練習は月・水・金の夜8時から10時までです。

長、中期目標を年度初めに立てて、選手に理解してもらいそれからトレーニングに入っていきます。

今年はブロック国体が地元であり、それに優勝し広島国体出場、そして日本リーグの一角を崩すというのが最大の目標で、事あるごとに選手に意識付けを行っております。

目標を達成するための準備として、フィジカル面においてゲームに耐え得るスタミナフットワークの養成を初期段階に行います。ある一定の水準に達したと判断したら、テクニカル面へ移って行きます。この場合個人技能のアップが中心となります。その選手のもっている得意なプレーを見極め、それが表のプレーだとすると裏のプレーを中心にトレーニングします。そうすることにより、得意なプレーがより強力となるからです。この時期にボールをキャッチしてからプレーするのではなくキャッチする前に動くことを要求します。

個人技能もある程度目標値に近づけばコンビプレーへと入って行きます。コンビプレーと言っても個人のプレーを生かし、それをつなぎ合わせるようにしています(最初から型にはめ込まない)。逆にパームヒルズクラブは型のないチームだと言えます。選手同士お互いのプレーを知ることが重要で、パーソナリティーの確立が求められる。しかし、現状ではパーソナリティーを確立した選手が少なく連続プレーがなかなかできません。

ひとつのプレーがだめなら次、また次といったことが若い選手は苦手のようである。ひとつひとつのプレーは素晴らしいものをもっているが、それを接続する術をもってないので、トレーニングの中でパスした後の走り、動きの強弱を要求し、接続プレーができるまで若い選手と我慢比べをしています。

練習中に連続プレーができると、何回もその状況を作り出し、反復させるようにしています。

攻撃で常に意識することは、必ず前を狙うことである。ボールがある、なしにかかわらずディフェンスに「怖い」「何かをしそうだ」というイメージを植えつけさせるためである。

次にディフェンス面ですが、トレーニングの中で一番時間を多く割いているのがこの分野です。体力、体格的に恵まれていない分、他のチームと同じディフェンスシステムを敷いていては勝てないという発想から、選手に対し「守ろうとするな、わざと抜かれなさい」と言っています。

そのかわり「抜かれる方向をしっかり決めろ」と指示しています。方向づけをしても逆に抜かれる場合は、ディフェンスラインが低いとフォローができないので、常に高い位置でプレッシャーをかけて抜かれ、素早く他のマークをとるようにしています。

オフェンスに精一杯プレーさせ、ディフェンスは余裕をもって対応できるのが、理想的ですが「抜かれろ」という言葉に、人間のもっている防御本能が顔を出し一生懸命守ろうとしてやられる場面がまだまだあります。

この辺をしっかりトレーニングをつんで抜かれる勇気をつけさせたいと思います。

地理的に他県との交流が簡単にできない現状ではありますが、本土での大会に参加するときには、「パームヒルズクラブは何をしてくるか分からない、見ていて楽しい、沖縄独特のハンドボールをする」と言われるようなチームを目指し、純粋にハンドボールの奥の深さを追求して行きたいと思います。

ドイツ研修報告6

ブンデスリーガから学ぶ

―ビーチハンドボールの概要紹介―

順天堂大学ハンドボール部監督　東根明人

はじめに、ドイツのブンデスリーガ（Bundesliga）に関することを少々書いてみたいと思います。

ドイツでは、毎週注目カードがテレビ中継されていることはご存じかと思いますが。その中で、試合終了後両チームの選手同士、監督同士がそれぞれインタビューを受ける光景は、日本では見ることがないのではないでしょうか。私も最初は、どうして敗れたチームのインタビューもするのか不思議でしたが、ファンサービスそしてノーサイドの精神ということを聞かされ、なるほどと納得した次第です。

また、ドイツのハンドボールはパワーで押し切るようなイメージを抱いているかもしれませんが、たとえばポストへのアンダーハンドパスやバウンドパス、そしてスカイプレーなどテクニカルなプレーも頻繁に見ることができます。一方で、移動しながら、あるいは助走をつけたプレーについては、決して上手いとは言えないのではないでしょうか。このあたり、ドイツでは〝Aktiv（積極的）〟〝あるいはschnell（速く）〟といったことをトレーニング中に要求し、解決を図ろうとしています。女子のナショナルチームにおいても、韓国が得意とするフェイント、特にダブルフェイントについて目下のところ取り組んでいます。伝統と創造が混在しながら、うまくバランスを取られているように思われます。

そして、私が特に注目していることは、男女とも20歳前後のプレーヤーがBundesligaはもとより、ナショナルチームにもおり、激しいぶつかり合いを演じているということです。いずれ彼らが、次世代の中心プレーヤーに育っていくのでしょうが、日本とは制度が違うとはいえ羨ましい限りです。ベテランと若手がうまくつながることにより、チーム力は勿論、次のチームへの引継ぎもスムースに行くのではないでしょうか。その結果として、安定したナショナルチームが存在するように思います。そして見逃してはならないのが、この下に2歳ずつ区切ったグループがあるということです。E-Jugend（9、10歳クラス）からA-Jugend（17、18歳クラス）までしっかりと組織化され、有望な人材が確保できるようになっています。一方、大人についてもトップレベルのBundesligaから年配の愛好家まで、レベルや目的に応じて区分されていることも、この国にハンドボールが深く根づいている証拠ではないでしょうか。

ところで、最近ドイツで行われている「ビーチ・ハンドボール」の概要を紹介したいと思います。先日発表になった大会要項を、私なりに訳してみました。何せ翻訳に関しては初心者ですので、いささか分かりにくい箇所もあるかと思いますが、ご容赦願えれば幸いです。

◎**コート**：コートは、四角形で砂地であること。コートの広さは、横11m、縦15m。長さ6mのゴールエリアラインを、両サイドに設ける。ゴール（2×3m）はゴールエリアの後方、ゴールライン中央に置く。

◎**交代ゾーン**：サイドラインすべてが交代ゾーンである。そして、1セットと2セットではチェンジコートをする。

◎**プレーヤー**：1チーム最高8名によって構成され、ゲームは、3名のフィールドプレーヤーと1名のゴールキーパーによって行われる。なお、全員素足であること。

◎**ゲーム時間**：トーナメントにおけるゲーム時間は、10分2セット制である。同点の場合、どちらか一方が、1点取るまで（サドンデス）続ける（延長戦は、レフェリースローから始まる）。そして、1セット取ったチームがワンポイント獲得したことになる。2セット目は再び0：0から始め、1セット目と同じように進められる。両セットを取ったチームが勝ちとなり、2－0となる。両チーム1セットずつの場合は、ペナルティースローコンテストによって、勝敗を決める。

◎**得点計算と罰則**：1ゴールは、1点であるが、スカイプレーによるゴールは3点とする。また、ゴールキーパーが攻撃参加し、ゴールした場合は、2点となるため、ゴールキーパーは他のプレーヤーとは明らかに異なるユニフォームを着なければならない。2分間退場はなし、退場に相当する反則に対しては、相手チームに3点与えられる。また、失格に匹敵する場合、そのプレーヤーはコート外に出、代わりのプレーヤーが入り試合は続けられる。同時に、相手側に5点加算される。失格したプレーヤーを次のゲームに出場させるかどうかは、両チームの監督の協議によって決められる。

その他、「ローカルルール」「ペナルティースロー」に関する項目がありますが、紙面の関係上次回の報告とさせて頂きます。

ハンドボール競技における外傷・障害に関する調査報告 第2報

小西博喜（川崎医療福祉大学）
常岡秀行（京都工芸繊維大）
吉田義昭（和歌山県立医大）
岡本克彰（岡本針灸医）
小西敏博（元神鋼病院）
東　嘉伸（関西外国語大）
樫塚正一（武庫川女子大）
曽田　宏（武庫川女子大）
福井孝明（大阪経済大）
土井秀和（大阪教育大）
山崎　武（大阪体育大）
宍倉保雄（大阪体育大）
早川清孝（京都芸大）
大内勝夫（天理大）
赤塚　勲（成蹊女子短大）
沖　史也（京都府立医大）
岸本光夫（京都府立医大）

はじめに

スポーツ人口の増加に伴い、運動時に発生する外傷・障害に対する関心が高まってきている。特にトップレベル選手だけでなく、学校クラブ活動やレクリエーションスポーツにおいても外傷・障害に対する知識とその予防の意識が必要である。今回は第2報としてハンドボール競技における外傷・障害についての対処法ならびに予防対策等について分析・検討したので報告する。

対象と方法

調査対象は、１９９４年度関西学生ハンドボール連盟に加盟する男子1～6部41チーム、女子1～4部28チーム、男子２７４名、女子１９２名、合計４６６名であり、質問紙法によるアンケート調査を実施した。すでに前回、第1報（ハンドボールNo.３５０）で報告したが、今回は足関節捻挫後の後遺症に焦点をあて、初回捻挫の際に治療を受けた施設及びその治療内容、捻挫後にハンドボールを休んだ期間、ハンドボール経験年数、また、日常外傷・障害に対して工夫している点、競技レベル等に関して報告する。なお、捻挫ぐせは関節の不安定性に起因するもので、女子選手については素因としての関節弛緩性の関与が大きいと考えられるため、男子選手のみについて分析することにした。

結果と考察

図1では、全体の61・8%が何らかの外傷・障害の経験があると答え、その中で最も多かったのが足関節部の34・6%であった。ついで膝関節で確定診断名としては十字靱帯損傷や半月板損傷等が多かった。また、突指と関節数の多

図1　スポーツ外傷・障害の部位別頻度

い手指の受傷例も多い。腰部は診断名としては腰痛症や椎間板ヘルニアといった傾向がみられ、肩関節は脱臼の頻度が高く、他には投球動作を繰り返すことによって生じる野球肩のような障害もみられた。その他の外傷・障害としては肉離れ、アキレス腱障害、疲労骨折、眼球打撲等がみられた。一方、外傷・障害はないと回答した選手は38・2%であり、ほぼ3分の2の選手がハンドボールによる外傷・障害を経験していることがわかった。

図2は足関節捻挫経験者92名中54名、58・7%つまり、半数以上が後遺症ありという結果が得られた。これは全体の19・7%であり、「約2割の選手に足関節捻挫の後遺症がある」ということである。

足関節捻挫には内がえしによって生じる外側の靱帯の損傷と、外がえしによって生じる内側の靱帯の損傷がある。その他の後遺症としては、「ジャンプの着地時やフェイントをかける時等の特殊なプレーに際して痛みがある」「関節が硬くなった」「踏んばりが効きにくい」等の記載があった。

図3の治療を受けた施設にはやはり病院や医院が最も多く52名中27名、51・7%、ついで接骨院や針灸院が21名中15名、71・4%、そして特に治療を受けずに放置したか、自分で勝手に湿布のみと回答した選手が19名中12名、63・2%に後遺症がみられ、病院や医院で治療を受けたグループでもほぼ半数に後遺症がみられた。

図4は治療の具体的内容として、

図2　足関節捻挫経験者のなかで
何らかの後遺症を有する割合

	後遺症あり	後遺症なし
特に治療をせずに放置	12	7
接骨院および針灸院	15	6
病院および医院	27	25

（横軸：0, 10, 20, 30, 40, 50, 60（人））

図3　治療施設による比較

手術・ギプス固定を受けたと答えた選手の中にも31・8％に後遺症が残存していた。特に治療を受けずにそのまま放置するか、湿布処置のみを実施した場合には、55・2％の高頻度で後遺症がみられる。湿布処置後に電気治療あるいはマッサージ等の治療を接骨院で受けているが、この場合も37・5％に後遺症が認められている。捻挫の程度が重度である程後遺症が残る確率も高い。手術を要する捻挫は靱帯の完全断裂をきたした重症例が多く、十分なリハビリテーションを施さないと例え手術をしても必ずしも良好な結果が得られない場合があると考えられる。

図5は、足関節捻挫でハンドボールを休んだ期間を4つのグループに分けて後遺症発生の頻度について調べた。休んだ期間が1週間未満のグループが36名で最も多く、後遺症残存率については、2ケ月以上のグループが78・5％であり、長期休養を余儀なくされる場合捻挫の程度がより重症であったと推測される。これは捻挫の程度が予想以上に重症であった場合と本来はもう少し休養を要する状態にかかわらず無理をして練習に参加したり、試合に出場するために後遺症を残す結果になったものと考えられる。後遺症の中で大多数の捻挫ぐせは「しょっちゅう捻挫する」であり、もともと関節が緩い状態、すなわち、関節弛緩性という解剖学的特徴を有する選手が捻挫し易いと感じていることが考えられる。

図6は競技レベル別に足関節捻挫の後遺症の有無について比較す

手術あるいはギプスで固定
湿布をした後マッサージ、電気治療
湿布だけかそのまま放置
0　20　40　60(％)

図4　治療内容による比較（後遺症残存率）

棒グラフ(人)
棒グラフはその人数で、折れ線グラフはそのうちの何％が後遺症があるかを表わす。
折れ線グラフ(％)
36　16　17　14
1週間未満　1週間以上一カ月未満　1カ月以上2カ月未満　2カ月以上

図5　ハンドボールを休んだ期間による比較

図6　競技レベルによる比較

ると、3部以上の競技レベルの高いチームに比較して、4部以下の低いチームでは約70%に達する高頻度の残存率を示した。すなわち、競技レベルの高いチーム程、低いチームより密度の濃いハードな練習が行われており、捻挫とその後遺症の危険性は高いと予想されるが、一概にはいえないことがわかる。つまり、3部以上のレベルでは選手・指導者・マネージャーはスポーツ外傷・障害に対する危機感も強く、それらを予防する意識や知識も高く、一度外傷を受けた部位や障害のある部位を保護するためのサポーター、テーピング等の医療器具、設備などが整備されているためであると考えられる。

ストレッチングに十分時間をかけている
ウェイトトレーニングを行っている
サポーターやテーピング保護している
その他
全体
4部～6部
1部～3部
0 20 40 60 80 100(%)

図7 選手が工夫している外傷・障害予防の方法

（図7）今回の調査で全体の約3割の選手が日頃から意識してスポーツ外傷・障害の予防に努力しているが、一方ではまた約7割の選手は、スポーツ外傷・障害の予防に対しての意識が低いことも指摘される。このことは足関節捻挫の後遺症が58・7%と頻度が高い原因として非常に重要な意義を有していると考えられる。これでもわかるように「ストレッチングに十分時間をかけている」であり、全体で約6割を占めており、各選手が外傷・障害の対策や予防として工夫している点、また、ウェートトレーニングによる筋力強化や事故防止のテーピング等、スポーツ外傷・障害に対する意識の差が後遺症残存率に反映しているものと考えられる。

まとめ

今回の調査結果から捻挫後の後遺症対策としては、決して捻挫を甘くみることなく、日常の練習時から捻挫も含めたスポーツ外傷・障害の予防に努力を惜しまないことが重要であるといえる。さらに、スポーツ外傷や障害に対する知識を深め、応急処置や予防法について具体的な対策を講じているか否かが捻挫後の後遺症の頻度に大きな関わりを有するものと考えられる。

（この要旨は第42回日本学校保健学会1995年兵庫において報告した）

［文献］

(1)高沢晴夫ほか：腰部のスポーツ障害第一次調査報告、日本体育協会スポーツ科学研究報告、(一九七三年)
(2)梅ケ枝健一、苛原実、バスケットボール選手によくみられる足関節捻挫、臨床スポーツ医学、VOL・6・No.2、一四九－一五三頁、一九八九年
(3)河野照茂ほか：サッカー選手の身体的プロフィールとスポーツ外傷、臨床スポーツ医学、VOL・10・No.12、一四三九－一四四三頁、一九九三年
(4)鳥居 俊、来田吉弘：男子高校駅伝選手のランニング障害の発生状況、臨床スポーツ医学、VOL・10・No.12、一五二八－一五三二頁、一九九三年
(5)中村隆一、斉藤宏：基礎運動医学、一九九三年
(6)黒田善雄ほか：スポーツ医学 一九七七年
(7)岡正典ほか：運動医学 一九八六年
(8)J.Lang.W.Waschsmuth: PRAKTISCHE ANATOMIE BEIN and STATIK, p343, 図二八五（一九七九年）

ニクいぞ〝オルソン戦略〟

企画・広報委員　**早川文司**

熊本の男子世界選手権まで1年を切った。4月にはプレマッチのジャパンカップが華やかに開かれ、史上初の賞金大会としても注目を集めた。また、本番へのリハーサルとして事務局も神経をとがらせていたが、5月の全日本実業団選手権に続き、全国高専選手権、全日本学生選手権の開催を通して万全な準備が進められると期待している。

ところで、初の外国人監督・オルソン氏を迎えた全日本はジャパンカップで公式戦デビューをしたが、今後、強化合宿を積み重ねる傍ら、海外遠征もこなし戦力アップを図っていく。

オルソン監督は当面、体力強化を第一に掲げ、合宿では一日4～5食、5000キロカロリーのノルマを課し、体重5キロ増が大命題というが、外国勢に当たり負けしない〝日の丸軍団〟が誕生する日も近いことだろう。

そのオルソン監督のすらりとした長身はカッコいいが、クラシック鑑賞が趣味というのもステキだ。ジャパンカップのウエルカムパーティーでも弦楽四重奏の演奏を熱心に聴き入っていたほどだ。

そしていかにも音楽好きの彼らしいトレーニングのアイデアを出してきた。ジャパンカップで披露された熊本大会テーマソング「ONE BALL, ONE WORLD」を聴いて「このテープが欲しい」一。実は体力トレーニングの時にテーマソングを流すというのだ。アップテンポな曲に合わせてのトレーニング法は、さすがミュージック愛好者だし選手に「熊本」をイメージさせるには持ってこいということなのだろう。

ジャパンカップでオルソン監督が口酸っぱく言ったテーマは、勝敗ではなく闘争心だった。強い精神力をベースに技術、体力をつけて熊本へ乗り込みたい一の意思が伝わってきた。その一助にテーマソングを流してのイメージトレーニングとは、これほど〝ニクい戦略〟はない。心意気に十分応えるためにも、選手は〝オルソン戦略〟にパーフェクトに乗せられてみようではないか。

フリースロー
Free Throw

コンチネンタル・レフェリーに合格!

仲田　稔・植村　彰両レフェリーは去る3月31日～4月4日まで韓国ソウル市において実施されたアジア・コンチネンタルレフェリー・コースに参加、見事これに合格した。コンチネンタルレフェリーとは、今年より国際審判員のシステムが変わり、IHF・Aレフェリーになるには、まずコンチネンタルレフェリー候補としてアジア連盟に登録する。そしてこの候補からアジア・コンチネンタルコースを開催し、これに合格すればコンチネンタルレフェリーとなり、アジア大会やアジア選手権大会、各大会のアジア予選、その他国際試合等が担当できる。そしてこれらの笛で認められれば、IHFレフェリーコースに進み、これに合格すれば晴れてIHF・Aレフェリーとなる。

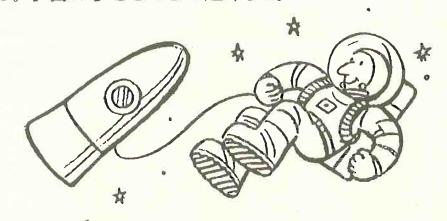
彼らの、今後の研鑽に期待したい。

川島氏 審査指導員へ就任

かねて1名欠員が生じていましたが、平成6年度で国際審判員を定年で終られた川島氏にご就任頂いた。彼の長年培われたキャリア・審判技術を後進の指導に生かして頂くことを期待している。

平成8年度全日本大会指名レフェリー

先月号で平成7年度の優秀レフェリーを発表しました。このレフェリーの中から平成8年度全日本大会へ指名されるレフェリーを発表します。

林　　俊夫・田中　　勇（北海道）
佐藤　睦朗・大沢　由和（岩　手）
仲田　　稔・植村　　彰（千　葉）
阿部羅大造・浜野　大助（石　川）
楓　　健児・渡辺　貞彦（愛　知）
馬場　保夫・浜田　浩嗣（兵　庫）
藤井　俊朗・大熨　嘉彦（岡　山）
竹村　久晴・坂井　良至（愛　媛）
森山　正治・新荘　悌男（福　岡）

ジャパンオープンハンドボールトーナメントについて

1、審議の経過

　国体リハーサルを社会人大会にとの要望に対し、平成5年12月18日開催のクラブ（社会人）委員会と、平成6年1月8日開催の国体委員会において検討がなされ、「リハーサル大会を大阪大会より社会人大会に切り替える。クラブ大会は、平成6年度をもって終了し、社会人大会に併合していく方向で考える」との報告が、平成6年1月22日の常務理事会でなされた。

　平成6年2月4日の臨時常務理事会で、実施内容案がまとめられ、社会人大会のあり方については、特別委員会を組織し継続検討することとなった。

　平成6年8月のクラブ選手権における全チームアンケートの結果を踏まえ、社会人大会の方向付けに関し、特別委員会に検討をゆだねた。

　平成6年9月常務理事会において社会人大会検討委員会の委員が了承され、11月12日に社会人大会検討委員会が開催された。この結果を踏まえ平成6年11月理事会において、種別、チーム数、参加資格について決定された。

　平成7年1月常務理事会において、社会人大会の名称について一本化できないかとの指摘があり、検討することとなった。

　平成7年2月理事会において、社会人大会の検討結果について報告され、クラブ大会の実施については再検討の要があることが報告され了承された。

　平成7年3月に国体委員会が開催され、大阪リハーサル大会は社会人・クラブの2大会の開催は難しく男子32チーム女子16チームで開催する社会人大会とすることが立案された。

　平成7年5月常務理事会で、大阪リハーサル大会は2大会の開催は難しく、男女社会人大会1本にして、クラブ大会は従来通り個別に実施したいことが報告された。

　平成7年11月理事会においては、社会人大会開催要項案内容について了承され、名称問題のみが継続検討となった。またクラブ大会について単独開催の方向が示されたが、開催についてはブロック理事長会に一任された。

　続いて12月16日にブロック理事長による、全国クラブ開催運営についての打ち合せ会が開催され、検討がなされた。結果、東西2地区で開催、両大会トップのチャンピオン戦を開催することとなった。

　平成7年12月常務理事会において、検討課題であった社会人大会名称について、「ジャパンオープンハンドボールトーナメント」とし、サブタイトルに「第○○回国体リハーサル大会」とすることで承認された。

（以上のように、平成4年の評議委員会での提案を受けた社会人大会は、約4年の審議を経て、平成8年2月理事会で成案を見た。）

2、大会設立の意義と目的

　日本の社会は、世界の情勢における変化に伴い、同様に変化を遂げてきている。スポーツ界もまた同様に変化を遂げてきており、ハンドボール界も例外ではなく変化を遂げてきている。世界選手権は2年に一度の開催となり、ヨーロッパ大陸連盟の設立、ヨーロッパ諸国以外の台頭など、枚挙に暇がないほどである。日本のハンドボール界も、このような動きに乗り遅れることなく変化をして行かなくてはならない。

　従来日本のスポーツ界は、学校体育を中心に発展をしてきた。日本のハンドボール界では、現在も学校体育を中心としているといっても過言ではないであろう。しかし、学校体育を否定するわけでなく、社会体育という範疇でこれからのハンドボールを考えることも大切なこととなると思われる。文部省では、社会体育としての地域総合型スポーツクラブの実験段階に入っており、これから社会体育としてのスポーツ活動のニーズは高まってくると思われる。

　現在日本では少子化のピークは過ぎたものの、これから児童生徒の数は急減期に入っている。このような状況の中で、すでに学校単位ではチームが組めない状況も生まれてきている。2～3校でのチーム設立もひとつの方法であるが、社会体育にも場を持つことが物理的にも一つの良い方法と考える。また、単位制高校が設立されつつある現在、これらの生徒のニーズにも応えられ得ると考える。

　大学では進学率の高まり、学生・定員の増加により、チーム数も増えてきた。しかし、学生連盟登録は1大学1チームが原則であり、同好会チームも増加している現状

がある。これら同好会チームは、自前でリーグ戦を組み活動はしているが、その範囲にとどまるだけのものである。これらのチームの活動の場を拡げるのは裾野を拡げるということで一つの方策となる。

また、ナショナルチームを頂点とした日本ハンドボール界の構図は、裾野を拡げ、頂点をより高くし、各連盟の組織的枠を乗り越え、選手や指導者に夢と希望を与え、活力を生み出させる要因となると考えられ得る。

国体の2部は平成7年度をもって廃止となった。これに伴い、生涯スポーツとしての底辺の活動は、全国クラブ選手権として、引き継がれる方向となった。

3、項目別説明

イ、大会名称について

名称については当初「社会人大会」という名称が用いられていたのは周知のことと思われる。しかし、「社会人大会」という名称で学生（同好会など）の身分を持つものが参加するのはふさわしくないとの意見があり、より大会の趣旨や内容を表すのにふさわしい名称にするとのことになった。数多くの案が提示されたが、開かれた大会とするとのことより、ジャパンオープン　ハンドボール　トーナメントとすることが決定された。

ロ、参加資格について

参加資格は一般Aとなっているが、日本協会選手登録の一般Aカテゴリーの選手登録のことである。日本協会選手登録は、一般L、一般A、一般B、学生、高校、高専、中学、小学、リージョナルの登録区分がある。この一般A登録の中に、全日本実業団連盟、全日本教職員連盟、その他の登録がある。すなわち、一般A登録は、実連、教職員、自衛隊、いわゆるクラブを含んだ登録カテゴリーである。つまりここでは連盟登録は問題にしていない。

ハ、ブロック別参加割り当てについて

ブロック別割り当ては、平成7年度日本協会選手登録の一般A登録チームを基礎にし、各ブロックの登録チーム数割当に割り当てた。

この大会は全日本総合への出場権を与えるため、より強いチームが多く参加することが望ましいとのことより、都道府県対抗戦でなく、チーム対抗のチャンピオンシップを目指した大会と考える。将来は47都道府県の代表47チームづつの大会にしたいとの意見があるが、現状の強化・普及の度合いを考え、各都道府県代表を2チーム以内でブロック予選を行うことが望ましいとの注が添えられた。

日本ハンドボール協会登録カテゴリー

カテゴリー	
一　般　L	
一　般　A	→この中に実業団連盟、教職員連盟、その他（いわゆるクラブチーム）のチームがある。
一　般　B	…平成7年限りとされ、平成8年より廃止
学　生	→学生連盟
高　専	
高　校	→高体連
中　学	→中体連
小　学	
リージョナル	

4、全国クラブ選手権について

全国クラブ選手権は社会人大会審議経過の通り、国体2部廃止に伴う草の根大会を目指し、当初は社会人大会のB種別として計画され、日本協会内で一度は成案となったが、行政との折衝において、国体リハーサル大会としては実現不可能となった。しかし、クラブチームに対するアンケート結果、全国理事会における審議を経て、独自で全国クラブ大会を開催していくこととなった。その概要については以下の通りである。

①参加チームの経済的事情を考慮し、東西に分けて行い全日本総合の決勝の日に同会場でチャンピオン戦を行う。

②東・西両大会のブロック代表割り当ては開催代表を含め各男子12チーム、女子8チームとし、開催地代表の考え方もブロックに一任された。

③参加資格は日本協会に一般A登録されたチーム及び個人で、各連盟に登録されたチーム及び個人は参加できない。自衛隊連盟は活動を休止しているので参加できる。

④ジャパンオープンハンドボールトーナメント本大会（全国大会）に出場するチーム及び個人は参加できない。

各地の試合結果

第5回KTN杯

（4月13日—14日・長崎日大高）

＜一般男子＞

▼1回戦
海自佐 36—20 総科大
オモミク 27—12 長崎大

▼準決勝
長崎ク 26—15 海自佐
オモミク 21—17 北送会

▼決勝
長崎ク 30—26 オモミク

＜一般女子＞

▼決勝
佐世保ク 16—9 諫早ク

＜中学男子＞

▼1回戦
日吉中 36—10 早岐中
相浦中 12—0 青雲中
小島中 20—10 時津中
日宇中 20—10 大瀬戸

▼2回戦
日吉中 29—6 鳴北中
小ケ倉 20—12 相浦中
小島中 19—16 深堀中
日宇中 23—7 土首中

▼準決勝
日吉中 24—13 小島中
日宇中 20—7 小ケ中

▼決勝
日吉中 24—14 日宇中

＜中学女子＞

▼1回戦
相浦中 10—6 鳴北中
小島中 24—4 大瀬戸
福石中 12—0 大野中

▼準決勝
相浦中 7—5 柚木中
小島中 25—6 福石中

▼決勝
小島中 11—3 相浦中

三重県春季大会

（4月14日～21日・四日市四郷高）

＜一般の部＞

▼1回戦
三重教員 36—14 尾鷲ク
鵜ノ森ク 30—22 西朝明ク
パインヒルズ 28—27 ウェルディ
西笹川ク 37—17 鈴鹿高専
亀山猿軍団 21—18 梅ノ木ク
不断桜 19—18 山王ク

▼2回戦
本田技研 50—13 三重教員
鵜ノ森ク 12—0 パインヒルズ
西笹川ク 23—14 亀山猿軍団
本田ク 45—14 不断桜

▼準決勝
本田技研 34—8 鵜ノ森ク
本田ク 40—14 西笹川ク

▼決勝
本田技研 25—17 本田ク

三重県高校春季大会

（4月14・21日・四日市四郷高／28日・津東高）

＜男子＞

▼1回戦
尾鷲 18—11 津西
上野工 18—14 高田
四日市四郷 13—9 川越
三重 22—15 四日市中央工
四日市 22—9 桑名北

▼2回戦
桑名工 43—8 尾鷲
上野工 22—19 津工
四日市南 21—20 桑名西
暁 24—5 四日市四郷
四日市西 33—4 三重
津東 12—5 上野
名張西 20—17 桑名
四日市工 36—3 四日市

▼3回戦
桑名工 36—15 四日市南
暁 41—13 上野工
津東 13—9 四日市西
四日市工 22—19 名張西

▼準決勝
桑名工 21—15 暁
四日市工 19—9 津東

▼3位決定戦
津東 22—9 暁

▼決勝
四日市工 22—15 桑名工

＜女子＞

▼1回戦
津東 14—8 三重
桑名西 24—14 川越
名張西 15—8 四日市四郷
上野 17—2 尾鷲
名張桔梗が丘 15—11 四日市南
桑名 14—7 四日市
四日市商 35—2 四日市西

▼2回戦
暁 21—4 津東
名張西 20—15 桑名西
名張桔梗が丘 13—12 上野
四日市商 30—3 桑名

▼準決勝
暁 23—4 名張西
四日市商 39—5 名張桔梗が丘

▼3位決定戦
名張西 16—11 名張桔梗が丘

▼決勝
暁 18—11 四日市商

長崎県高校春季大会

（4月20日～22日・佐世保）

＜男子＞

▼1回戦
青雲 19—8 西陵

▼2回戦
瓊浦 29—5 大村
日大 34—7 佐世保北
鹿町工 16—14 長崎工
長崎北 21—12 西海
佐世保西 24—12 長崎南
北陽台 26—10 上五島
青雲 19—13 佐世保商
口加 28—11 長崎商

▼3回戦
瓊浦 31—9 鹿町工
日大 29—17 長崎北
佐世保西 21—12 青雲
北陽台 28—9 口加

▼準決勝
瓊浦 22—11 佐世保西
日大 25—15 北陽台

▼シード決定
佐世保西 16—13 北陽台

▼決勝
瓊浦 19—13 日大

＜女子＞

▼1回戦
日大 20—14 島原農
長崎西 18—3 九州文化
長崎北 13—3 佐世保女

▼2回戦
聖和 28—11 佐世保北
長崎北 11—6 佐世保商
日大 20—10 佐世保西
有馬商 10—6 長崎西

▼準決勝
聖和 35—15 日大
有馬商 15—11 長崎北

▼決勝
聖和 29—13 有馬商

第25回三重県中学生大会

（4月21日・四日市四郷高／28日・津東高）

＜男子＞

▼1回戦
西笹川 23－12 笹川
菰野 20－12 白子
四日市南 28－7 名張
天栄 16－13 東員第二
大安 16－11 名張北

▼2回戦
朝明 36－3 西笹川
四日市南 23－12 菰野
西朝明 15－6 天栄
大安 17－16 亀山

▼準決勝
朝明 27－7 四日市南
西朝明 17－12 大安

▼決勝
朝明 26－10 西朝明

＜女子＞

▼1回戦
大安 18－6 名張

▼2回戦
西笹川 16－7 赤目
名張北 8－6 四日市南
北勢 8－4 菰野
羽津 26－4 柘野
阿山 18－13 天栄
桔梗が丘 15－11 笹川
西朝明 14－1 東員第二
朝明 33－3 大安

▼3回戦
朝明 23－2 西笹川
北勢 7－6 名張北
羽津 32－14 阿山
西朝明 9－6 桔梗が丘

▼準決勝
朝明 8－6 北勢
羽津 13－8 西朝明

▼決勝
朝明 9－8 羽津

山口県学生春季大会

（4月28・29日・山口大学）

山口大本部 20－8 山口大医学部
徳山高専 30－12 宇部高専
山口大本部 25－8 徳山大
山口大医学部 20－10 宇部高専
徳山高専 39－15 徳山大
徳山大 19－11 宇部高専
山口大医学部 15－13 徳山高専
山口大本部 17－7 宇部高専
山口大医学部 19－15 徳山大
山口大本部 26－12 徳山高専

［順位］①山口大学本部4勝②山口大学医学部3勝1敗③徳山高専2勝2敗④徳山大学1勝3敗⑤宇部高専4敗

愛媛県高校総体

◆東予地区（4月28・29日・今治西高）

＜男子＞

▼1回戦
今治西 38－0 今治工
新居浜西 19－9 新居浜東
今治東 27－13 西条農
新居浜工 58－2 新居浜南

▼決勝リーグ
今治西 29－8 新居浜西
新居浜工 28－5 今治東
今治西 27－11 今治東
新居浜工 23－5 新居浜西
新居浜工 17－14 今治西
新居浜西 16－6 今治東

［順位］①新居浜工3勝②今治西2勝1敗③新居浜西1勝2敗④今治東3敗

＜女子＞

▼1回戦
今治東 12－11 新居浜東
新居浜商 29－3 弓削
今治南 23－4 今治西

▼決勝リーグ
今治北 16－5 今治東
今治南 19－8 新居浜商
今治北 13－7 新居浜商
今治南 23－5 今治東
今治北 9－8 今治南
今治東 18－13 新居浜商

［順位］①今治北3勝②今治南2勝1敗③今治東1勝2敗④新居浜商3敗

◆中、南予地区（4月28・29日・松山北高）

＜男子＞

▼1回戦
新田 31－2 東温
松山南 22－11 城南
松山東 28－8 伊予

▼準々決勝
松山工 19－8 新田
松山中 11－8 松山北
松山南 18－11 松山商
松山西 19－13 松山東

▼準決勝
松山工 17－13 松山中
松山西 18－14 松山南

▼3位決定戦
松山南 16－13 松山中

▼決勝
松山工 28－16 松山西

＜女子＞

▼1回戦
伊予 31－5 伊予農
松山中 13－6 東温
松山商 16－11 松山西
松山北 35－1 三崎

▼準決勝
伊予 24－7 松山中
松山北 20－13 松山商

▼3位決定戦
松山商 28－9 松山中

▼決勝
松山北 15－10 伊予

◆南予地区大会
（4月29日・宇和南高）

吉田 12－11 宇和島南

平成８年度賛助会員紹介 （４月現在）

[北海道]駒林　昭三、松本　博、佐藤江里子、山辺　文彰、武田　稔雄
[青　森]諏訪　正徳
[岩　手]箱崎　敬吉、渡辺　和佳、菅原富美子
[宮　城]千田　文彦
[秋　田]高山　重雄、山中　浩、豊島　慶男
[山　形]奥山　重雄
[福　島]宗形　守敏、加藤　岳郎
[茨　城]立原　定宗、大西　武三、住尾　勉、田中　勲
[栃　木]高橋　隆夫、下勝　司
[埼　玉]遠藤　健次、大澤　武夫、高田　誠、根城　泰、伊藤　良、木野　実、竹野　泰昭
[群　馬]高橋　潔
[千　葉]金牧　稔、稲生　茂
[東　京]滝口　三郎、中澤　重夫、市原　則之、大野　金一、大塚　文雄、渡邊　佳英、殿水　幸雄、米倉　功、江成　元伸、福地　賢介、藤原　侑、佐野　和夫、高橋　健夫、中村　早苗、安藤　純光、飯田　信行、杉山　茂、田島　悦子、佐藤　俊男、岩佐　邦彦、丹野　純一、吉岡　暁子、佐藤　和孝、出原　理、高橋　英次、後藤恵理子、塩川　安賢、青木　宏治
[神奈川]森川　利昭、真田　元、植村　繁、臼井　鉄久、村松　誠、佐分　正典
[山　梨]斉藤　実、植野　保
[新　潟]寺崎　修、大矢　三郎
[長　野]岩下　道範
[富　山]山口　吉弘、嶋田新太郎
[石　川]若山　博、牧　浩二
[福　井]越田　義昭
[静　岡]寺田　嘉一、秋山　光男、生子　勝久、松下　順
[愛　知]伊藤　和夫、野田　清、浅野　克彦、田中　基明、近藤　久弥
[三　重]鈴木　義男、鷲見　應治、田村　金子、西村　亮治、栗本　士郎
[岐　阜]森川　俊章、豊島　康彰
[滋　賀]尾本　和男
[京　都]小西　博喜、梶浦　英善、藤本　昇
[大　阪]東　嘉伸、久保　義雄、北岡　大覚、山中善之助、望月伸三郎、森本　正毅、浅井　安子、四方　洋子、花畑　耕司、花畑　平男
[兵　庫]大原　康昇
[奈　良]森田　正英、中川　敏文、佐々木英明
[和歌山]田中　秀和
[鳥　取]松原　紀機
[島　根]中西　磊
[岡　山]楠戸　榛也、長澤　和男、田浦　博
[広　島]西元　義昭、山下　泉、田中美代子、入本　和男、琴田　英子、山本　由美、松本　隆允、今村　和紀、峠野　光伸、高間　隆次、隆杉　端、孫　燕、立花ひろし、西田　裕子、黒川　正明、菊岡　正敏、末田　清則、花高　実喜、河野　洋右、村瀬　正機、尾上　国信、両徳　良樹、片岡　賢司、不破　亨、向井　良文、佐々木正志、山本　一、荒谷　拓三、清水　圭介、河原　隆雅、槙岡　辰男、広住　誠、加藤　将己、市原　一雄、川崎　京子、杉原由香里、谷　恵美、坪島　愛、西田　洋子、山崎　理恵、岡崎　紘美、平田　幸男、山村　美沙、槙場　英昭、森田　寛子、梶川芙美恵、佐田　磨美、下村　頼子、土井　朋子、中村　稚、西原　一聖、牧田　幹、河野　二、林　竜二、向井　信行、松本　竜吾、高西　宏昌
[山　口]青木　操、柳井　文治、広政　清純、飯田　弘昌、林　哲人、藤尾　洋
[香　川]槙井　俊明、松原　忠、末澤　光夫、楠原　敏明
[徳　島]佐藤　公美
[愛　媛]野中　聰、越智　武
[高　知]武田　末男
[福　岡]中西　敬一、松本　浩志
[佐　賀]甲斐　忠義、中園　嘉彦
[長　崎]原田　国男
[熊　本]興縄　義昭、高田　憲之、井　薫、森　豊夫
[大　分]福田　稔、松井　光
[宮　崎]坂本　平
[鹿児島]堀之口真男
[沖　縄]新垣　健

ハンドボール　COTENTS　6月号

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第三六四号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成八年五月二十六日 印刷 平成八年六月一日 発行

東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表 三四八一—二三六一
振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三

編集兼発行人 中澤重夫

定価三五〇円